

高退協二ニュース

高退協事務局

1983. 10.

No. 19

● 県政に新風を！
● 門田 豊・門脇重勝・津野義宣
● 坪井幹之・渋谷 巖
● 年金はどうなるの？
● 事務局だより

ごあいさつ

門田 豊

高退協の皆さん！ 元気気でございませう。

今回はからずも社・共両党から知事選出馬を要請されましたが、勿論その器でもありませんし、僅力ご辞退を申し上げましたが、高教組や県教組・高退協や退協婦教・新婦人をはじめ沢山の民主団体からも要請や激励を受け、若し私が辞退しつづければ、事実上、革新統一で知事選をたたくことが困難な情勢となり、「今ここで、革新の統一が失敗に終り、中内さんの独走を許すことになれば、自分のやってきたこれまでの運動の意味がなくなってしまう」と考え、遂に立候補を決意しました。

正に青天の霹靂であります、すでに矢は放たれ、闘いは始まっております。

いまはただ、反自民・反中内でまっしぐらに、闘い抜く決意を固めております。

あの勤評闘争で、「勤評は戦争への一里塚」と叫んで闘い抜きました、が、今まさに、戦争の足音が聞こえて来ます。

この闘争で、多くの良心的な先輩・同僚が不当弾圧を受けたことは、いまなお忘れたいとは思えません。時の中内教育長と対決することになり、思わず全身の熱くなるのを覚えます。

戦後三十七年の長期にわたる保守県政は、いまや安住とマンネリにおち入り、汚職相繼ぎその腐敗ぶりが目立っております。私は、県民本位の「明るいガラス張りの清潔な県政」特に、教育問題を重視して努力したいと思っております。また平和は地方行政から「非核県宣言」を追求してゆきたいと考えています。

土佐の発祥、自由民権の先駆的伝統に学び「平和で躍動するあすの高知県」をつくるために全力をあげる決意です。

諸先輩の力強いご支援と、ご指導を心からお願ひ申し上げます。ごあいさつと致します。

「青天の霹靂なれど大土佐の革新めざし出で立つ吾は」

勝利の確信もって

高知県教組委員長 門脇重勝

昔から、戦いは、「天のとき、地の利、人の和」がいわれる。この知事選は、まさにそれだ。自民党の悪政に世間が暗く沈むとき、大衆は、世直しのため「正義と献身」の人を求める。

革新統一の成否がかかったとき、圧倒的な声に呼応して門田豊氏は起った。いくらでもなく決意する背景に戦後一貫して民主教育と統一戦線の担い手としてこの人を育ててきた高知の民主勢力の力強い伝統があったのは、いうまでもない。

たたかいは、まず確信がある。勝利の条件はある。現に三市二町三村に革新首長があり、これに南國・土佐・須崎と、かつて革新自治の歴史をもつ三市を加えるなら、そうした政治を経験した教員、優に県民の過半数をこしている。自民党の悪政を暴露し、10・21田中斷罪の日を経て「草の根の力」で政治革新の気運を盛りあげ、高知市長選勝利の教訓を生かして全力をつくして奮闘しよう。

平和で躍動する

民主県政確立のため 門田豊知事実現めざし奮闘しよう

門田豊教職員後援会会長 津野義宣

十一月末におこなわれる知事選において、民主勢力の統一の力で、社共総評を中心に県民連合を結成し、革新門田知事誕生のためたたかひぬくこととなりました。

こんどこそ！ なんとしても中内反動県政ストップ！ 悲願三十年の夢を実現できる革新のホープ門田氏の教職員後援会も結成されました。

◎現・退連合の教職員の総決起、体制作りを！
残された日数は五十日、しかし私たちは、誰もが絶対不利と考えられた昨年十月の高知市長選で、横山市長を勝利させた貴重な経験をもっています。

この教訓を最大限にいかし、中曾根反動内閣に直結した中内県政を打倒し、荒廃したふるさとに新風をふきこみ、躍動する民主教育を確立するため、全力投球しましょう。

破邪の剣もて

高知高教組委員長 坪井幹之

坂本龍馬、土佐人の好きな人物の筆頭に上げられる。天衣無縫の生きざままで維新回天の業を準備した。その最たるものは薩長連合である。彼は倒幕の統一戦線に生命をかけたと言えよう。

門田豊、今、革新統一にすべてを捧げようと私心を捨てて立ち上った。「大土佐の革新めざし出で立つ吾は」である。高教組は、言葉通り組織の総力を上げてたたかり体制を準備しつづける。三十数年にわたる自民党県政に鉄鎧を下す秋である。中内力、相手にとって不足はない。勤評のうらみを晴らす絶好のチャンスでもある。

桶狭間の一戦における織田軍のよう、門田候補を先頭に、高退協・高教組一騎は、その旗本となって戦陣を駆けぬけようと思う。選挙は近代戦にちがいないが、たたかひに燃えた方が勝である。投票日まであと五十日、革新県政樹立のため破邪の剣もて立ち上ろう。(二〇・八)

県政刷新めざして

高知高退協会長 渋谷 巖

門田豊氏が革新統一候補として出馬を決意し、社・共、総評など五団体で「躍動するあすの高知県をつくる県民連合」が結成され、自民党内県政打倒めざして戦いの火ぶたがきられました。門田氏の決断と勇氣に心から敬意を表します。

二期八年の中内県政は汚職・安住・マンネリの中で県政を発展に導く意欲とビジョンには期待できません。県政刷新のため立ちあがった門田氏は、長年剣道で鍛えたたくましい肉体と精神で正義を愛し、不正を憎み、県民の心を心とする民主県政実現のため、真実一途、熱血をたぎらせています。

高退協は彼の決意に呼応して総力をあげて戦いぬくために後援会を組織しました。積極的なご支援・ご協力を切にお願ひいたします。

高退協後援会

- 会長 重永三雄
- 副会長 浜田昌俊
- 副会長 山崎博幸
- 事務局長 渋谷 巖
- 事務次長 市川 一郎
- 事務局員 松高一正
- 事務局員 小川逸雄

年金はどうなるの？

退職後の生活を豊かで、健全かに生きるためには、先づ生活が安定していること、健康であること、でしょう。ところが、臨調路線は私達のささやかな生活給与ともいえる年金に対しても攻撃をかけてきています。その実体をあきらかにしてみます。

- (第一弾) 国鉄共済・国家公務員共済・電々専売の四共済組合の統合。
- 地方公務員共済組合の統合(学校・警察を除く)
- (第二弾) 厚生年金・国民年金・給付年金の統合(昭和六十年実施)
- (第三弾) 全部の統合(昭和七十年)

◎ 統合のねらい
国の負担軽減。保険料の掛金を大巾に上げる。給付は三割ダウンする。

- ◎ 改悪のポイント
- 1. 年金水準を引き下げる。
- 2. 保険料・掛金を値上げする。
- 3. 年金支給開始年令の引き上げ。
- 4. 併給制限(禁止)
- 5. スライド制の廃止を最終目標としたなくすの改悪。

◎ 年金改訂どうなるの？
昭和五十七年度改定は入勸凍結により改訂はみおくられた。

昭和五十八年度入勸は八月六日、六・四七五アップ(昨年度分四・五八五、本年度分一・八九五)を勧告したが、政府・自民党は昨年の四・五八五は凍結、本年度一・八九五アップにとどめたいと申し合せをしている。

これに対し公務員共済は、臨時国会段階で、ストを含む強力な斗争を組織し、完全実施を勝ちとる方針。我々も現職と共闘し、入勸完全実施、年金改訂にむけて共に頑張りましょう。(九・一五、全国高令者中央大集会の報告)

事務局だより

◎ 高退協会費(年一〇〇〇円)の納入についてのお願ひ!!
昭和五十八年度会費納入状況は、現在、四十五名にとどまっています。このままですと会の運営・活動に重大な支障をきたします。未納の方は早急に納入下さるようお願いいたします。